

令和3年度 釜ヶ淵地区町政懇談会

開催日時 令和3年7月13日（火）午後7時～午後8時

開催場所 釜ヶ淵公民館

出席者 立山町 舟橋町長、酒井副町長、大岩教育長、青木総務課長、
安川建設課長、野田農林課長、青木教育課長、
瀬本美しいまちづくり推進室長、
成瀬農林課課長補佐、長岡建設課課長補佐

地元議員 荻生議員

釜ヶ淵振興会 栗田振興会長

企画政策課 林課長、中川課長補佐、定塚係長、高田係長、松本主任、橘主事

参加者数 20名（うち町職員2名）

1 挨拶

町長挨拶

2 懇談会

(1) 町からのお知らせ

- ①第10次立山町総合計画について（企画政策課長から説明）
- ②防災センター・児童館整備について（企画政策課長から説明）
- ③最適土地利用対策について（美しいまちづくり推進室長から説明）

(2) 釜ヶ淵地区協議事項

（栗田振興会長）

①釜ヶ淵小学校適正配置（3年経過）の今後について

- ・審議会で立山小学校と統一することに決まってから3年が経過した。
- ・5年を目途に統一するという話だったと思うが、現在の進捗を確認したい
- ・会議も2、3回しかしていないと思う。

（教育課長）

小学校の規模・配置の適正化については、令和元年10月に、釜ヶ淵小学校にて児童保護者や地区役員の皆様を対象に説明会を開催し、適正配置検討審議会からの答申内容等について説明している。

また、同年11月の地区町政懇談会においても、答申内容や、保護者への説明会での協議内容について意見交換したところである。

その後、未就学児の保護者も含めて説明会を開催していく旨お伝えしていたが、コロナ禍により開催することができず、延期となっている。新型コロナウイルス感染症の状況を注視し、7月3日からは、県の新型コロナウイルス感染症対策の警戒レベルがステージ1に移行したことを受け、9月を目途に、未就学児の保護者に加え昨年度の説明対象であった保護者の皆様への説明会を開催し、その後も引き続き協議していきたいと考えている。

平成30年度立山町立小学校適正配置検討審議会からの答申及び釜ヶ淵地区からの付帯決議の内容を受け、令和2年8月開催の教育委員会定例会において、適正規模・適正配置推進計画について協議し承認を得たところである。また、令和3年度を初年度とした今後のまちづくりの指針である第10次立山町総合計画では、休校となった場合は、

校舎を有効に活用するため、民間事業者による地域の活性化と振興発展に資する利活用の提案を受け、施設改修を図るとともに関係人口を増加させ、新たな移住・定住対策につなげるについて明記している。

今年度においては、6月の教育委員会定例会にて、今年度にコロナ禍の状況をみて説明会を実施予定であること等について意見交換し、引き続き保護者、地域の皆様と協議、調整を行っていくことを共通理解している。

②農業用水事故問題（通学路・草刈り）について

- ・農業用水での事故が全国的に起きている。
- ・地区要望などにより、町で通学路などを草刈りしてもらっている。
- ・事故防止のための取組など、全般的な町の考えをききたい。

(農林課長)

農業用水事故については、ご懸念を抱かれていますとおり、近年、県内において転落事死亡事故が相次いでいる。過去10年間に、県内で計198件の死亡事故が発生しており、うち16件が立山町内で発生している。

県では令和元年12月に、効果的な事故防止対策の方向性を示す「富山県農業用水路安全対策ガイドライン」を策定し、町においても、このガイドラインに沿って、国・県の支援のもと、転落事故を未然に防止する取り組みを進めている。

今年度は、通学路等と平行する水路幅が、概ね1mと比較的大きな農業用水路および排水路を対象として、各集落や土地改良区から要望があった町内13箇所、総延長約3,270メートルで転落防護柵の整備を行うこととしている。

併せて、昨年度、榎集落・浦田集落で開催した「ワークショップ」を踏まえ、住民自らが、地域内の農業用排水路における危険度の点検と評価を重ねて作成した「危険度マップ」に基づき、転落防護柵の整備や網状のふた等を設置予定である。転落事故防止対策をより進めていくには、この「ワークショップ」を町内広域的に展開するなど、地域と行政が一体となって取り組むことが大切であると考えている。

引き続き、スピード感をもって地域住民の安全意識の押し上げと、実行性の高い転落事故防止対策に努めていきたい。

③釜ヶ淵保育所の跡地（更地）問題について

- ・保育所跡地の利用について、任意売買の話もあったが進んでいない。
- ・現状と今後の方向性を聞きたい。

(総務課長)

(旧)釜ヶ淵保育所については、外壁等にアスベストの含有を確認したため、昨年11月末に解体撤去を完了したところである。

解体撤去後の土地の利活用については、先ほどご説明した最適土地利用計画・整備計画の策定の中で、検討していくこととしている。

④空き家対策について

- ・空き家が増えてきており、美しいまちづくり推進室も設置された。
- ・前回も協議事項にあげたが、現在の対策、方針を聞きたい。

(美しいまちづくり推進室長)

まず、地区要望にあった釜ヶ淵小学校北側の住宅については、立山町空家等対策協議会の意見を踏まえ、昨年12月に「特定空家等」に認定し、所有者に対して住宅を解体するよう「指導・助言」を行い、本年2月に「勧告」を実施した。この間、残念ながら改善

に向けた対策が講じられなかったため、先般（6月）、「命令」を実施した。ご承知のとおり昨年9月には、同じ敷地内にあった土蔵や樹木を行政代執行にて除却したが、この住宅について今後、所有者による改善がみられなければ、同様に行政代執行を行わざるを得ないと考えている。

町の空き家対策全般については、町民の安全を守り、安心した生活環境を確保するために、平成27年に立山町空家等対策計画を策定し、また、令和2年には町独自の空き家条例を制定するなど、空き家対策を進めている。

この、空き家対策の基となる資料として、町内に存在する空き家のデータベースを作成するために、これまで2回、空き家実態調査を実施している。平成28年度の前回調査では、町内に379件の空き家があることを把握している。

今年度、第3回目の空き家実態調査を実施している。この調査で把握した空き家のうち、危険なものについては所有者等に対する指導等により、空き家の適切な管理を促すこととしている。また、使用可能と思われる空き家については、所有者の意向を伺いながら、町が運用する空き家情報バンクへの登録を促すなど空き家の利活用を促進し、有効な活用がなされていない空き家の解消に取り組んでいく。

(3) 自由意見

- **小学校の適正配置について、小学校が無くなると釜ヶ淵町営住宅の若い入居者の減少につながると思うがいかがか。**

(教育課長)

町営住宅からの釜ヶ淵小学校への入学者は、ここ最近1桁台となっている。

(町長)

釜ヶ淵町営住宅は新しい施設なので将来的には残していきたい。釜ヶ淵町営住宅に空きがあることは承知している。いろんな施策を打ち出しているが効果がでていないと思っている。令和3年度は結婚5年以内の夫婦かつ夫婦の合計年齢が80才未満の世帯、もしくは、小学生以下の子供がいる世帯、母子保健手帳の交付を受けている世帯には、毎月10,000円分のたてぽを48ヶ月間付与する制度をスタートした。また、富山市や雄山高校に通う高校生に対して、五百石駅までの運賃を引き続き助成している。まだ11世帯も空いているとのことなので、PR不足だと感じている。もっと方法をみつけていきたい。子育てしたいと思ってもらえるよう、釜ヶ淵小学校を改修した。釜ヶ淵保育所は解体したが周辺に耕作放棄地が多いので移住者が市民農園をやりたいと思っても景観が悪い。環境を整備して人を呼び戻したいので専門の部署を置いた。町営住宅が満室になるような方法があれば教えていただきたい。

- **釜ヶ淵町営住宅の家賃が高いという声を聞くがどうなのか。**

(町長)

子育て世帯向けに特定公共賃貸住宅（5号棟）に入居の子育て世帯に対しては家賃を30%減免している。1～4号棟については所得に応じて家賃を決定している。江崎町営住宅を解体したため、新規受付の町営住宅は釜ヶ淵町営住宅だけなので、入居者が増えるようPRしていく。

- 「小学校適正配置検討委員会の答申内容は決定事項でない」と聞いて安心した。スクールケアサポーターをしていたので、状況がよくわかる。現在の15～20名でも目が行き届かないし、発達障害の子供も多い。一人ひとりをしっかり把握するには、大規模校より小規模校の方がいいと思う。適正化については理解できるが、釜ヶ淵小学校の児童が

立山小学校に通うという案は、生活圏的に考えられない。親も仕事や買い物等で、南(上)には上がっていかない。北(下)に下がっていく。町営住宅があることから、釜ヶ淵小学校を存続してほしい。

(教育長)

学校の大規模校、小規模校についてはメリット、デメリットがある。地域のみなさんと意見交換しながら考えを深めていきたいと思っているので、ご理解いただきたい。

- 学校の適正配置については、保護者や住民に対して丁寧な説明をお願いしたい。特に保護者に対して、複式学級について説明してほしい。①何人から複式学級の適用となるのか、②他の小学校で複式学級を取り入れているところがあれば教えてほしい。③小中一貫校については考えているのか。廃所した釜ヶ淵保育所のようにならないよう、行政は知らせる努力をし、住民も知る努力をしていかないといけないと思っている。

(教育課長)

2つの学年の児童数を合わせて15人(1年生を含む場合は8人)いれば複式学級にはならない、との国の指針がある。県内で複式学級を取り入れているところはあるが、立山町では複式学級を無くすという「立山町立小学校適正配置検討審議会」からの答申内容となっており、複式学級にならないよう適正配置を検討している。

- 保護者が集まった際に、今説明されたことを伝えてほしい。

(教育課長)

文書として配布する。

(教育長)

県内では、いろいろな自治体が小中一貫校を実現しているが、立山町には中学校が1校しかない。小学校は6校あり、一貫校にするのは難しい。現時点で可能性の一つとして考えていくことは必要だが、地理的な問題もあり難しい点が多々ある。ただ、「無い」と完全否定することは無い。

- 釜ヶ淵小学校の児童は単独で74名在籍しているが、立山小学校の児童は統合して何名の児童が在籍しているのか。

(青木課長)

立山地区、新瀬戸地区、芦峠寺地区合わせて74名在籍している。

- 単独で74名在籍している釜ヶ淵小学校が廃校となるのは理解できない。立山小学校に通っている子供の親も富山市など北(下)に下りてきている。地理的に考えて釜ヶ淵小学校に統合した方が迎えや緊急時で学校に行くときに便利。決定事項ではないと聞いたので安心しているが、検討してほしい。

(青木課長)

児童数は似通った数字だが、どうして立山小学校に統合することになったのかというと、立山小学校の児童は芦峠寺、新瀬戸地区からも通っている。地理的な問題もあり、立山小学校に統合するのが良いという「立山町立小学校適正配置検討審議会」の答申となった。今後、未就学児をもつ親とも話をし、子供たちが幸せな学校生活を送れるよう協議していく。

- 釜ヶ淵地区でも熊の出没に子供たちが怖い思いをしている。釜ヶ淵地区より南(上)に登校するのはもっと不安が増える。保護者も心配。学校の統廃合に関しては反対では

ないが、釜ヶ淵保育所も釜ヶ淵小学校も無くなるのは納得できない。どうして釜ヶ淵ばかり我慢しなくてはいけないのか。釜ヶ淵保育所を廃所したのだから小学校は残してほしいし、釜ヶ淵小学校は子供がいなくなるまで存続してほしい。立山小学校は校舎も新しいので他の利活用を検討してほしい。

(教育長)

今すぐには結論は出せないが、今後、より良い統合に向けて保護者や地区のみなさんと意見交換をし、一方的な押し付けにならないようにしたい。

- ワクチン接種について、申し込みの際に電話がつながりにくく、インターネットだとながった。インターネットを使えない高齢者に対して何か対応策はなかったのか。また、かかりつけ医での予約はできなかったのか。ワクチン接種について町に電話したが、対応が悪かった。任意接種のため、町からの発信が弱いように思う。

(町長)

7/11 現在の65才以上1回目接種者は88%。2回目接種者は72%。今週末には84%になる見込み。当初の見込みよりワクチン接種に積極的で、電話がつながりにくかったのは申し訳なかった。最大7名体制で電話対応したが、電話越しに接種日や接種場所を選んで伝えなければならず、一人にかかる時間が大きかったため、画面を見て自分でクリックしたら終わるインターネット予約の方が簡単で早かった。

かかりつけ医での予約実施は医院側の負担が大きくなるため、医師会からの要望で町が一括受付した。立山町のワクチン接種が他自治体より早かったのは、一括受付のおかげだと考えている。

ただ、7月下旬からワクチンの配布が減る。2回目分までは確保しているが、新規受付分についてはわずかしき用意できていない。その状況も8月下旬には復活できると思う。町職員の対応については調べる。

3 閉会

栗田振興会長、荻生議員挨拶

終了